

令和3年度 学校自己評価システムシート

本庄東高等学校

目指す学校像	建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 徳育、知育、体育を一体として生徒各自の個性を尊重し、自己の才能を十分に発揮させることに努める。特に 勤勉、愛情、聡明を信条とし円満な人格の向上を目指して愛情豊かに聡明で勤勉な性格の形成に努める。
重点目標	1. 常により高い学習目標を掲げ、各自の進路希望の実現に向けた学習活動を支援できるよう努める。 2. 進路目標達成のための実力が身につくような授業を展開するようにする。 3. 学校行事や生徒会活動への積極的な参加と、行事を通してクラスの団結・融和を図る。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
年度末への課題と改善策							
1	入学者の、ほぼ全員が大学進学を希望している現状を踏まえ、しっかりとした将来設計と、そのための勉強ができる大学に合格できるよう、学力・実力を付ける。	進路指導	担任との朝面談などを通し、生徒の現状と将来の希望を把握すると同時に精神面のサポートをする。模試を受験することにより生徒各自の現在の実力と今後の学習目標を設定、進路目標が達成できるように指導していく。 進路講演会やキャリア教育講演会などの実施で、受験についての知識や職業観を身につけ、希望進路先の情報収集をおこなう。	将来設計や進路目標を明確化することができたか。オープンキャンパスへの参加、大学案内や情報誌などから、希望進路先での学習内容や就職先などの情報収集がおこなえたか。	コロナ禍の中でも担任は必要に応じてZoomを活用し、学級報告会や面談などで、進路情報を提供したり、進路に関する相談に対応したりすることができた。各教科でもオンラインでの補習授業や添削指導を行い、受験指導に支障がないようにできた。オンライン予備校も積極的に活用し、学習をサポートすることができた。小論文・プレゼン・実技指導が充実し、今年度も多くの年内受験生のニーズに応えることができた。	A	現役合格率の更なる向上と、国公立や私立大学への合格者の内容充実を図るようにする。そのために東大プロジェクト補習だけでなく、基礎的な内容の補習もより充実させていく必要がある。早い段階からの受験に向けた環境づくり・意識づくりを継続的にいき、現役での志望校合格にこだわった指導をしていく。
2	希望進路に合わせ、中高一貫・特進選抜・特進・進学というコース別クラス編成をおこなっている。各コースに適した授業展開から、生徒一人一人の希望進路実現に向けた授業展開をする。	授業改善	教科内研修を充実させ、生徒の実状にあった授業展開と理解度を高められるようにする。 外部で行なわれる教科指導研究会などへの積極的参加や、教科担当者同士の連絡や授業研修など、横の連絡を密にする。	計画的な授業展開を行い履修者全員がより深く理解でき、その後の発展的課題に取り組めるような知識を身に付けられたか。	各クラス・コースの位置づけに応じた目標設定を行い、学習内容の充実が図られた。小テストと授業の連帯も図られ、早期に理解度の低い問題や生徒の発見につながり、学習をサポートすることができた。基礎学力の充実を図ることで、より発展的な内容へ踏み込んだ指導を行うことができた。コロナ禍においても、オンラインによる外部の教科指導研究会への積極的参加により、教科担当者の技量向上に努めた。	B	WITHコロナの状況を踏まえ、コース・クラスに応じた目標設定を目指す、基礎学力の定着を基に、応用レベルへとつなげる指導を行う。
3	体育祭・学園祭、進路講演会や教育講演会、芸術鑑賞など多くの行事を実施している。これらの行事への参加からクラスや学年、生徒同士の理解と融和を図る。	学校行事	学校行事における目標設定を通じて、生徒間の理解と仲間意識を高める。	各行事に協調性をもって参加できたか。クラスや学年内での交流ができたか。行事後、事後指導を行い、次回の行事に向けた指導ができたか。	昨年と同様、新型コロナウイルス感染症対策により、学校行事の中止が余儀なくされた。生徒のみの入学式や感染症対策を徹底した体育祭など工夫した実施を行った。また卒業式はインターネットによる同時配信を計画、昨年と同様、コロナ禍の行事が進化している。	B	コロナ禍の行事は限界がある。「三密」を避けた計画はもちろんのこと、保健部との相談は欠かせない。一方、生徒の思い出作りの行事は伝統を継承しつつ、工夫をしなければならない。特に教育懇談会などの行事は保護者との協力が必須であるが実現したい企画である。
3	多感な時期の高校生活のなかで、学業だけでなく、他にも打ち込めるものをもてるようにする。また、将来に向けても、多くの事柄にチャレンジする精神を養えるようにする。	部活動	部活動へ参加することが負担となり学業に支障が出ないように、定期考査前の部員対象の質問時間の実施などを通じて、勉学との両立を図れるように配慮する。外部コーチへの指導依頼などを通じ技術の向上を図る。	参加することが負担となり学業に支障が出ないよう工夫し、文武両道を目指す。積極的に活動に参加できるような環境作りができたか。各クラブが上位大会への出場できるようになったか。	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策が部活動のあり方を変化させた。特に、部活動内のクラスターの発生へのニュースは各クラブ内の対策の徹底余儀なくされた。また直前の大会中止やコンディションづくりなどに苦労をした。与えられた環境の中で、最善を尽くすことができた。	B	今後もwithコロナの部活動は続くようだ。感染症対策はもちろんであるが、大会への目標設定や成果をどう評価するかなど部活動の意義が重要である。また大会の中止や延期など、精神的ケアも考えた部活動のあり方が課題である。